

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 水稻

発行日 平成24年 5月31日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 分けつ発生を促進させるため、天候に応じてこまめに水管理をしましょう。
- ◆ 目標とする茎数が確保されたら、すみやかに中干しを行いましょう。
- ◆ 除草剤は雑草の種類や発生時期に応じて選択し、適期に散布しましょう。
- ◆ 取置苗はいもち病にかかりやすいので、土中に埋没させる等直ちに処分しましょう。
- ◆ カメムシ密度を低減させるため孵化盛期に合わせて地域一斉に草刈りを行いましょう。

1 生育概況

県全体の田植え盛期(50%終了)は5月18日に迎え、平年より3日遅れです。田植え終期は5月24日と見込まれ、一部を除いて概ね適期内に田植え作業が終わる見込みです。

移植直後の強風により植え傷みが見られている圃場もありますが、5月第4半旬以降、気温・日照時間ともに概ね良好に経過しており活着は概ね良好です。

表1 県内農業地帯別田植状況(各農業改良普及センター調べ) 5/28現在

地帯名	田植え時期(月/日)											
	本年(月/日)			平年			平年差(日)			前年		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	5/19	5/20	(5/25)	5/15	5/19	5/24	+4	+1	(+1)	5/18	5/22	5/26
北上川下流	5/13	5/17	(5/23)	5/10	5/14	5/19	+4	+4	(+4)	5/12	5/16	5/22
東部	5/14	5/18	5/24	5/10	5/15	5/20	+4	+3	+4	5/13	5/16	5/23
北部	5/20	5/24	(5/28)	5/18	5/22	5/26	+2	+2	(+2)	5/20	5/22	5/28
県全体	5/15	5/18	(5/24)	5/11	5/15	5/21	+4	+3	(+3)	5/14	5/18	5/23

注) 1, 平年値は10か年(平成14~23年)の平均値, 始期: 10%終了、盛期: 50%終了、終期: 90%終了
2, 括弧内の数値は未確定市町村があるため推定値。

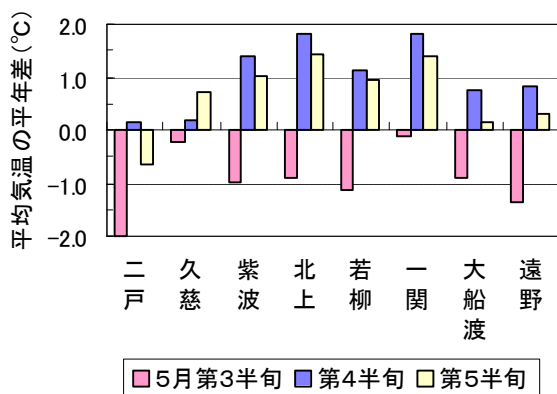


図1 移植期の平均気温平年差(半旬毎)

※第3半旬は11~15日、第4半旬は16~20日、第5半旬は21~25日、を表す。

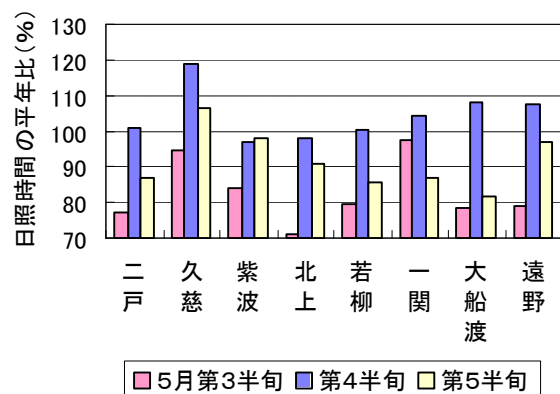


図2 移植期の日照時間平年比(半旬毎)

※第3半旬は11~15日、第4半旬は16~20日、第5半旬は21~25日、を表す。

2 水管理（分けつの促進と中干しの実施）

（1）分けつの促進

好天時は浅水とし、かけ流しをさせて水田水温や地温を高めて分けつ発生を促します。

最高気温が概ね15℃以下の低温時には、葉先が出る程度の深水とします。特に、県北部など田植えから間もないところでは、活着・初期生育を促すようきめ細かに水管理してください。

冷水のかかる水田では、ポリチューブなどを利用して積極的に水温の上昇をはかりましょう。

生わらを施用した水田では、気温の上昇とともにわらが分解して酸素不足になります。水持ちが良い水田では一時落水し、新しい水と入れ換えてください。ガス抜きと雑草防除をかねた中耕も効果的です。

（2）中干しの実施

目標とする茎数（目標とする穂数とほぼ同数）が確保されたら中干しを行いましょう。中干しは、土壌の還元化を和らげ、根の伸長促進と健全化をはかり、無効分けつの発生を抑制します。

ア 中干し期間はおよそ7～10日程度とし、田面に小さな亀裂が生じ田面を軽く踏んで足跡がつく程度を目安とします。

イ かん水や排水を容易に行うため、中干しの実施とあわせ作溝するのが望ましい。

ウ 中干し後、一度に深水にすると酸素欠乏で根に障害が出ることもあるので、中干し直後は間断かんがいと、その後常時湛水とする。以後は異常低温でない限り、幼穂形成期までは間断かんがいととする。

3 効果的な除草剤の使用

ノビエやホタルイなどの水田雑草はほぼ平年並みに発生が始まっています。

これから除草剤散布をするところでは、除草剤の効果を十分に発揮させるため、以下の点に留意して下さい。

（1）雑草の種類や葉齢を見極めて適期に処理する。

（2）処理後3～4日間は水の移動をしない（止水期間は1週間程度）。

特に、この間に田面が露出しないことが重要ですので、十分な湛水深を確保した上で処理する。



写真1 2葉期のノビエ



写真2 2葉期のホタルイ

【通常の初中期一発処理剤はこの頃までに処理すれば十分な効果が得られます。】

4 病害虫防除対策

（1）葉いもち（補植用取置苗の早期処分）

取置き苗はいもち病の伝染源になり易いので、まだ圃場内に放置している場合は、直ちに処分してください。

処分する際はいもち病が発生していないかよく観察し、葉いもちの発生が見られたら今後の本田でのいもち病発生に注意してください。

葉いもち予防剤の施用時期は6月20日～25日が適期です（移植時にいもち病予防剤を施用した場合は必要ありません）。例年、葉いもちが早期に発生する地域ではこれより7日程度早めに施用しましょう。



写真3 圃場に放置された取置苗

なお、ストロビルリン系薬剤（嵐剤、オリブライト剤）は耐性菌の発生リスクが高いため、嵐剤を箱施用した場合は、オリブライト剤を本田で使用しないでください。

葉いもち予防粒剤を施用する前や、箱施用剤を使用した場合も圃場をよく観察して、発生が見られた場合には、直ちに茎葉散布してください。

(2) 斑点米カメムシ対策（発生源対策）

斑点米発生の原因となるアカスジカスミカメは、イタリアンライグラス等のイネ科牧草や雑草の穂などを吸汁して繁殖します。水稻が出穂する前は、これらの植物が生育している畦畔や休耕田等で増殖しますので、発生源となる畦畔や休耕田等のイネ科牧草・雑草は出穂開花する前に刈り取ることが重要です。

アカスジカスミカメは卵で越冬しますが、越冬卵の孵化盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを行うと、越冬世代幼虫の密度低減に効果的であることが明らかとなっています（県農業研究センター平成19年度研究成果）。

本年のアカスジカスミカメ越冬世代幼虫の孵化盛期は平年より早い予報です。県内各地のアカスジカスミカメ越冬世代幼虫の孵化盛期については、県病虫害防除所発行の病虫害防除速報No.2 水稻編-1（平成24年5月21日発行）を参考にしてください。

アカスジカスミカメによる斑点米被害が問題となっている地域では、越冬卵の孵化盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを地域一斉に実施してカメムシ密度を低減させましょう。



写真4 畦畔に群生するイタリアンライグラス



写真5 アカスジカスミカメ成虫

春の農作業安全月間実施中！

[4月15日]
[~6月15日]

農作業 笑顔の豊作 無事故から

次号は6月28日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。